

海老名市立有鹿小学校 学校運営協議会 議事録
(令和6年度 第3回)

- 1 日時 令和7年2月27日(木) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立有鹿小学校 コミュニティルーム
- 3 出席委員 鍵渡正徳会長、碓井雅巳委員、越智正則委員、
田中由美野委員、伊藤恵美子委員、新井悦子委員
姫野珠実校長、内山大輔教頭 宮下翔太教務

4 会議の内容

(1) 開 会

(2) 会長あいさつ

(3) 学校長あいさつ

(4) 議事①「学校評価アンケートの結果について」

姫野校長: 児童、保護者向けに行っている「学校評価アンケート」の結果がでましたので、お伝えします。今回の大きな収穫は、回答率です。今年度は、昨年度と回答方法を変えて実施しました。子どもたちに宿題で「今日の宿題は、お家の人にアンケートをやってもらうこと」と実施したところ、回答率が飛躍的に上がりました。来年度もこの方法で実施したいと考えています。

アンケート項目①

『児童は、自分の良いところを見つけ自信をもっていますか。』

「あてはまらない」と回答している児童が全体の10%いる。自信を持つには、自分の力を発揮し、認められる経験が必要だと考える。出来たことを意識させる振り返りをしたり、児童同士で互いの良さを伝え合う・認め合う場を確保したりすることで自信を高めていきたい。

アンケート項目②

『児童は、教職員、友達、地域の人とあいさつをかわしているか。』

児童や保護者は、あいさつができていると感じている割合が高い一方で、教職員は、あいさつの質を求めているからか、肯定回答の割合に差がある。学校全体で、高学年児童や教職員が手本となり、さらにあいさつの質を高められるよう

な活動を検討していきたい。

アンケート項目③

『学校の学習は分かりやすいものになっているか。』

児童、保護者ともに 80%以上が肯定的な回答をしているが、児童と保護者で比べるとやや違いが見える。児童の、学習は分かりやすいものになっていると回答した実感を、保護者にも見て分かるよう学校がさらに工夫していく必要があると感じる

アンケート項目④

『タブレットを使うことで、児童は情報活用能力を高めることができるか。』

児童に比べると、保護者の「あてはまる」と回答した割合が少ない。日々の学習でタブレットを使っている様子を発信していく。また、使い方やルールについて、悩んでいることが考えられる。正しい使い方について、検討していく必要がある。

アンケート項目⑤

『学校は、避難訓練等の安全教育を計画的に実施しているか。』

児童、保護者ともに 97%が肯定的な回答をしている。訓練のさらなる充実に向けて、内容の検討を重ね次年度の実施へとつなげる。本校の取組の充実のために、実際の事案と照らし合わせたり他校の取組を取り入れたりしたい。

アンケート項目⑥

『学校は、積極的に地域交流しているか。』

児童に比べると、保護者の「あてはまる」と回答した割合が少ない。活動内容について、児童が家で話をしなければ保護者は知らないことが多いからだと思われる。どのような地域交流の活動をしているのか、もっと学校が保護者に発信していく必要がある。

アンケート項目⑦

『学校はインクルーシブ教育を推進しているか。』

児童は、91%が差別や偏見がないと感じているのに対して、保護者の「あてはまる」と回答した割合が少ない。「インクルーシブ教育」についての周知をはかるとともに、個に応じた、誰一人取り残さない教育に取り組んでいく必要がある。

アンケート項目⑧

『教職員は、児童が相談しやすい雰囲気だったか。』

児童は 93%、保護者は 90%が、教職員は相談しやすい雰囲気だと回答している。

しかし保護者の「あてはまる」と回答した割合が 46%になっていて、昨年度の 54%より低くなっている。日頃から、保護者とコミュニケーションを図るとともに、相談しやすい雰囲気づくりに努める必要がある。

伊藤委員：教職員の回答率が低いのはなぜか。

姫野校長：教職員に伝えたが、意識の問題もあり、結果的に回答率が低く、残念に思う。

伊藤委員：結果については、教職員のデータも保護者に伝えているのか。

姫野校長：児童と保護者の結果のみ学校だけで伝えている。

伊藤委員：アンケート項目④（タブレットを使うことで、児童は情報活用能力を高めることができるか。）では、先生からの肯定的な回答が少ない。児童と保護者、教職員とでは、意識に違いがあると思った。先生からすると物足りなさを感じているのか。

新井委員：保護者からすると、タブレットで学習をしていればそれだけで OK。しかし、先生からすると、「活用能力」という点からみると違うのではないか。

内山教頭：立場が違えば見え方も違って来る。子どもたちが分からないことを調べるためにタブレットを使うことはもちろん OK だが、先生からすると、それだけではなく、タブレットを使うことで、「こうなってほしい」という目指す児童の姿がある。教員が、「こんな風にタブレットを使ってほしい」ということを児童に伝えていくことが大切。例えば、1つのサイトだけみるのではなく、複数のサイトから情報を得て、取捨選択していく力をつけるなどがある。

伊藤委員：有鹿小はタブレットを取り入れるのが早く、長い期間使用していたにも関わらず、家庭と教職員でまだここまで意識の違いがあるのが気になった。

鍵渡会長：アンケート項目①（児童は、自分のよいところを見つけ自信をもっているか。）では、自信をもつために学校側が行った具体的な取組は何かあるのか。例えば幼稚園では、園から子どもの良いところを保護者にメモなどで伝えて、子どもを褒める機会をつくるようにしている。

姫野校長：帰りの会の「今日の振り返り」の中で、クラスの友だちのよいところを発表するなど、頑張ったことをみんなで伝え合う場を設定しているクラスが複数ある。

鍵渡会長：他の人から伝えてもらおうと、やはり嬉しさが違うし、自信になる。タブレットについては、自分も使っているが例えば自動変換をしてくれるのは便利だが、実際自分で紙に書く時など漢字が出てこないときがある。便利な反面、子どもたちにとって覚えなければいけないことも落としている気がする。これからの情報化社会は便利にもなるが課題もある。

避難訓練については、この地域では相模川が氾濫した時など、風水害の避難訓練について課題がある。

内山教頭：緊急の場合は、KICONA の駐車場に避難することになっている。

越智委員：KICONA には、簡易トイレも置いてもらっている。また、厚木駅のホームも緊急の際は避難してよいことになっている。

伊藤委員：KICONA には、実際先生が行って、現地を確認しているのか。

内山教頭：そこまでは行っていない。

越智委員：水害の場合の避難場所は学校ではない。やはり、まず高台に行くという意識をもつことが大切である。

越智委員：アンケート項目⑦、⑧（⑦学校はインクルーシブ教育を推進しているか。⑧教職員は、児童が相談しやすい雰囲気だったか。）については、保護者は理解できないのではないか。よほど親と子が情報をやりとりしていないと分からないと思う。

田中委員：アンケート項目⑧については、親としては、子どもとの会話から先生の話題がでてくるなどで判断していると思う。

越智委員：今の親は忙しいから子どもとそこまで会話できていないのではないのか。

伊藤委員：子どもから「先生のことが好き」という言葉がでてくれば OK としか判断できる材料がない。

伊藤委員：インクルーシブ教育について、よく耳にするようになったが具体的な取組は今年からなのか。

田中委員：先生方も戸惑いがあるのではないのか。

姫野校長：インクルーシブ教育については、今後の海老名市の取り組みについて公表される予定。海老名市の HP で視聴することもできる。

鍵渡会長：インクルーシブだけだととても意味が広い。障がいだけでなく、例えば宗教など多岐にわたる。学校現場では、どこに基準をもっていけばいいのか。

姫野校長：子どもも、保護者も教職員も意識を変えていくことが大切だと考えている。

伊藤委員：小学校からではなく、幼稚園・保育園くらいからその意識をもっていくことも大切ではないか。

内山教頭：自分と価値観が違うのは当然で、それを許容できるかどうかが大切。小さい時から悪口を言うことはダメなことで知識としては分かっているが、行動に落とし込めないことが課題。制度が変わってもその意識をやはり変えていかなければいけない。

新井委員：今は、きちんとしている子の方が周りからきつく言われる傾向がある。家庭教育がしっかりされている子やしつけが行き届いている子は、インクルーシブについての意識が高いと感じる。

伊藤委員：今は昔の子と違う。昔は、近所や地域の人からいろんな事を教えてもらった。今の時代、地域の人々が注意をすると保護者から反感をかうこともある。家庭、地域がしなければいけないことも全て学校が教えるのは大変。

伊藤委員：学校で子どもたちに話をしても、子どもがその考えに納得しないこともある。多様性の観点からみると、その子の考えも尊重しなければいけない。どこまで学校が教えるのが難しい。

姫野校長：自分の考えとほかの人の考えが違ってよいことをまず教える。自分と違う考えをもつ人を攻撃するのはよいことではないということを伝えていきたいと思う。

内山教頭：私は、教えるというよりもいつも自分の気持ちを子どもに伝える。「先生は、あ

なたにこんな子になってほしい」と伝えている。

議事②「令和7年度有鹿小学校グランドデザインについて」

・「令和7年度有鹿小学校が「めざす子どもの姿」

・「令和7年度有鹿小学校の学校運営経営方針ならびに具体的な取組について」

姫野校長：学校アンケートの結果や学力調査の結果等も踏まえて、子どもたちに「こんな力をつけてほしい」という願いを込めて令和7年度のグランドデザインを作成した。私たちが育てたい子どもの姿は次の3つである。まず「多様な考えを受け入れ、自らの学びを生かせる子」多様な考えを受け入れ、みんな違って当たり前、そしてその違いを受け入れてほしいと思っている。次に「心身共に健康で根気強く一生懸命に取り組む子」心身共に健康で、たくましい心と体が大事なのではないかと思う。結果や順位にこだわるではなく、何事にも一生懸命取り組む子を育てたい。3つ目の「自分も相手も大切にしたいあたたかく関わりあう子」は、自分も相手も大切に、子ども同士、教員と子ども、教員と保護者もあたたかく関わりあってほしい。幸福感を感じないという子もいるので、なんでも当たり前ではなく、日常の些細なことでも幸福感をもてる子になってほしい。

今お話しした3つの目指す児童像を実現するために、具体的な取組として3つの柱を立てた。1つ目が「ひとりひとりを大切に」としてスペシャルサポートルーム、有鹿小学校でいえば「あるかルーム」や「ステップルーム」などを今後も活用していき、ひとりひとりを大切に作る学校にしていく。2つ目の「あたたかく」では、創立70周年ということで児童会を中心にいろんなイベント企画している。先日行った代表委員会でもいろんな意見が出ている。様々な取組をする中で、必然的に異学年でかかわることが多くなってくる。6年生には、一人ひとりがリーダーになって下級生や有鹿小学校を引っ張ってほしい。

最後の「地域とともに」では、学校だけでは子どもたちの成長を見守るのは難しい。今後より一層地域の力が必要になってくる。学校と保護者、地域の方々などたくさんの大人が子どもたちの成長にかかわっていただきたいと思っている。

～インクルーシブ教育について～

碓井委員：インクルーシブ教育の関係でいえば、多様な考えを受け入れるとあるが、なんでも受け入れるのか。受け入れるではなく、理解ではないのか。理解するとは考えることなので。インクルーシブを今後続けていくと日本はだめになると思う。今のインクルーシブの考えに違和感を覚える。

伊藤委員：教育長がそもそもインクルーシブについて、そのあたりをどう思っているのか知りたい。

碓井委員：受け入れる広い心をもつよりも、認識させることが教育の仕事だと思う。

なんでも受け入れて許してあげるというのは違う。インクルーシブ教育はなくな

ればいいと思っている。

内山教頭：なんでもありと多様性は＝（イコール）ではない。

伊藤委員：子どもたちからなんでも「多様性だから」と言ってくると困る。これから自分の都合のいいように多様性を使う時代になっていってしまう気がする。

越智委員：相手が考えていることを否定するのではなく、まず聞いてあげることが大切なので、やはり受け入れるとは少し違う気がする。文言の違い。

姫野校長：文言については、再検討させていただきます。

～鼓笛について～

田中委員：話は変わるが、鼓笛について、先日海老名小学校が海老名駅で演奏をした。いろんな人たちに見てもらえて楽しそうに演奏していてとてもよかった。

～特色ある実践事業計画について～

姫野校長：海老名市教育委員会に申請した4つの事業と予算について皆様にご承認いただきたい。

碓井委員：70周年の費用（42900円）がお小遣い程度な気がする。

姫野校長：周年イベントについては、色々な取組をするなかで、缶バッチをつくる機械がほしかったので、それを購入するための費用になる。

碓井委員：鼓笛などももっとたくさん費用をとってもいい気がする。

姫野校長：航空写真については実費はかからない。クリアファイルや横断幕も同じように費用がかからない。依頼した業者は写真の販売などで利益を得るシステムとのこと。PTAにも周年の積み立て予算があるので必要だったら使わせていただくということで話が進んでいる。

新井委員：前回の50周年でもPTAの周年積み立て予算をつかった。

田中委員：子どもたちが主体でやれるのがいいと思う。

新井委員：ぜひイベントを見にきたい。

議事③「令和7年度学校運営協議会の組織について」

姫野校長：運営協議会の任期が2年なので、学校としては、次年度もこのメンバーでお願いしたい。会長についても、鍵渡委員に継続をお願いしたい。

5 その他

- ・令和7年度の有鹿の森の日程と学校応援団とのかかわりについて
- ・今後の学校と学校応援団との関わりについて（ミシンのボランティア、遠足の引率など）

- ・教頭より卒業式について諸連絡

6 事務連絡

- ・次回の学校運営協議会の開催予定について

7 閉 会